

# 第三回神戸免疫感染症セミナー (大学院特別講義/シグナル伝達医学講演会)

## 生体イメージングでつなぐ基礎と臨床と創薬研究

## Link among basic/clinical sciences and drug discovery via live imaging

日時: 2017年8月17日(木)

17:00~18:30

場所: A講義室(外来診療棟4F)

### 梶島 健治 教授

Kenji Kabashima, M.D., Ph.D.

京都大学大学院医学研究科 皮膚科学



皮膚は、外界と体内とを隔てる単なるバリアではなく、絶えず外来抗原の侵入に曝される最前線の免疫臓器です。そこではアレルギー反応、細菌・ウイルス感染防御、自己免疫反応などの多彩な免疫応答が誘導されています。

従来、皮膚免疫細胞の動態や局在は、皮膚生検をもとにある一時期における二次元の世界から類推せざるを得ませんでした。しかしながら、近年の二光子励起顕微鏡システムなどの進歩により、時空間的に免疫細胞の動態を捉えることが可能になりました。また、蛍光分子プローブの開発により癌細胞や生体の構造が一細胞レベルで詳細に解析する事が可能となっています。

臨床の現場では、様々な疑問が生じます。そして、私たちは、動物実験を始めとする基礎研究によりそれらの疑問を解明し、それを臨床応用に繋げたいと思っております。今回は、その作業における生体イメージングの有効性について、幾つかの疾患モデルを利用してご紹介させて頂きたいと思っております。

#### 【参考文献】

- 1) Ruzicka T, Hanifin JM, Furue M, Pulka G, Mlynarczyk I, Wollenberg A, Galus R, Etoh T, Mihara R, Yoshida H, Stewart J, **Kabashima K**, Group XS.  
Anti-Interleukin-31 Receptor A Antibody for Atopic Dermatitis.  
*N. Engl. J. Med.* 376: 826-35, 2017
- 2) Ono S, Egawa G, Kitoh A, Dainichi T, Otsuka A, Nakajima S, Honda T, **Kabashima K**.  
Local inflammation exacerbates cutaneous manifestations in a murine autoimmune pemphigus model.  
*J. Allergy Clin. Immunol.* (in press)
- 3) Natsuaki Y, Egawa G, Nakamizo S, Ono S, Hanakawa S, Okada T, Kusuba N, Otsuka A, Kitoh A, Honda T, Nakajima S, Tsuchiya S, Sugimoto Y, Ishii KJ, Tsutsui H, Yagita H, Iwakura Y, Kubo M, Ng L, Hashimoto T, Fuentes J, Guttman-Yassky E, Miyachi Y, **Kabashima K**.  
Perivascular leukocyte clusters are essential for efficient activation of effector T cells in the skin.  
*Nat. Immunol.* 15: 1064-9, 2014

【コーディネーター】 システム生理学分野 教授 和氣 弘明

【主催】 シグナル伝達医学研究展開センター

【連絡先】 研究支援課研究企画係 Tel: 5195, E-mail: k9shien@med.kobe-u.ac.jp